

大豆(えんれいのそら)の栽培ごよみ

時期	10月～11月		5月	6月		7月	8月～9月		10月		
生育期	排水対策・土づくり期間			播種準備～播種期		生育初期～培土期		開花期	莢伸長期～子実肥大期～黄葉期	収 穫 期	
主 な 作 業 内 容	○額縁対策・弾丸暗渠 ・弾丸暗渠と心土破碎により透水性を確保する。 ・額縁排水を前年積雪前までに実施する。										
	栽培指針はP98～99を参照する。 地力増進作物（ヘアリーベッチ）の										
	①土づくり ・麦跡も土づくりは必要。 ・堆きゅう肥又は醗酵けいふんを施用する。 ・苦土石灰を施用する。										
	②種子消毒 ・播種準備 ・基肥施用 ・好天時に1日で完了する										
	③適正播種作業（5月末～6月中旬） ※播種深度3cm程度										
	④1回目培土 〔播種後20～25日〕 培土の効果 ①排水促進 ②根量・根粒の増加 ③倒伏防止 ④雑草抑制										
	⑤2回目培土 〔播種後30～35日〕										
	⑥莢数確保の為のうね間かん水										
	⑦1回目病害虫防除 （8月6～15日） ⑦2回目病害虫防除 （8月20～30日） 防除間隔14日間										
	⑦刈取前の青立ち株、雑草を除去する。										
	○適期収穫 ・仕上げ水分150%以下。 ・調製施設を利用する。 ・均一な大豆に仕上げるため、農協の乾燥 ○乾燥・調製 ・刈取時間は、午前10時～午後4時頃まで ・地際から10cmで高刈りする。 ・子実水分200%以下で収穫する。 ・コンバインの清掃はこまめに行う。										
	※雑草は早めに除去する										
	大豆バサグラン、ポルトフロアブルの散布時期の目安										
	ザクサ、バスタ、ダイロンゾルの散布時期の目安										

栽培管理のポイント

良質大豆生産のポイント
◎ 排水の良いほ場づくり ◎ 土づくり ◎ 適正播種作業（5月末～6月中旬） ◎ 雑草防除 ◎ 的確な中耕培土 ◎ 莢数確保の為のうね間かん水 ◎ 病害虫の適期防除 ◎ 適正な収穫・乾燥 ◎ 地力増進作物（ヘアリーベッチ）の作付

目標栽植本数			播種量 (10a当り)
播種時期	10a当り	m当り	
5月末～6月上旬	16,000本	13本	中粒 4.8kg 大粒 5.7kg
6月中旬	18,000本	14～15本	中粒 5.4kg 大粒 6.4kg

※播種量は大粒32g/100粒、中粒は27g/100粒とした場合、苗立率90％とした場合。

①土づくり（pH6.0以上を目標）

資 材 名	10a当り施用量	散布時期
苦土石灰	100kg以上	耕起前
堆きゅう肥	2 m ³	
醗酵けいふん	100～150kg	

②種子消毒

対象病害虫	薬剤名	処理方法
アブラムシ類 ネキリムシ類 タネバエ フタスジヒメハムシ 茎疫病 リゾクトニア根腐病	クルーザーMAXX	※種子1kg当り 原液8mlを塗沫する

○施肥基準

肥料名	施肥区分	10a当り施用量	施肥時期
基肥555	側 条	単作	10
		麦跡	15
	全 層	単作	15
		麦跡	25
LPs大豆専用	側 条	単作	15

※堆肥を施用したほ場では減肥を検討する。
※基肥555は吸湿性が高いため、開封後は早めに使用する。

③適正播種作業

- ・ 耕起は碎土率、播種精度を高めるため丁寧に行う。
- ・ 播種作業速度は、歩くような速さで(30a/70分)（欠株による苗立ち不良を出さない）
- ・ 播種深度は3cm程度とし、晴れが続くようであればやや深くする。
- ・ うね立て同時播種等の実施により、できる限り表面排水に努める。
- ・ 除草剤散布時は、除草効果を高めるため、播種直後、土の湿っている状態ですみやかに散布する。
- ・ 基幹排水溝と額縁排水溝を連結する。
- ・ 排水側の枕地に排水溝を増設し、排水を促進する。

④1回目培土(播種後20～25日)

- ・ 本葉2～3葉期に子葉がかくれるまで培土する。
- ・ 培土時に基幹排水溝と排水口へ連結する。

⑤2回目培土(播種後30～35日)

- ・ 本葉4～5葉期に初生葉がかくれるまで培土する。
- ・ 培土時に基幹排水溝と排水口へ連結する。

⑥7月下旬～9月上旬の莢数確保の為のうね間かん水

- ・ 開花後、晴天が3日以上続くと見込まれる場合は、短時間のかん水を行う。
- ・ ほ場全体に水が行き届いたら、すみやかに排水する。
- ・ この時期の干ばつは、莢数が減り、減収につながる。

⑦防除基準

〔基本防除〕

使用機械	対象病害虫		薬 剤 名	希釈倍数	10a当り原液量	10a当り散布量	収穫前日数	総使用回数
動力散布機	紫斑病	1回目	Zボルドー粉剤DL			3 kg	—	—
	カメムシ類		スタークル粉剤DL				7日前まで	2回以内
	紫斑病	2回目	トライトレボン粉剤DL			3 kg	14日前まで	2回以内
動力噴霧機	紫斑病	1回目	プランダム乳剤25	4,000倍	50ml	200 ℓ	7日前まで	2回以内
	カメムシ類		スミチオン乳剤	1,000倍				
	紫斑病	2回目	アミスター20フロアブル	2,000倍	100ml	200 ℓ	7日前まで	2回以内
無人航空機	カメムシ類		キラップフロアブル					
	紫斑病	1回目	プランダム乳剤25	24倍	33ml	0.8 ℓ	7日前まで	2回以内
	カメムシ類		スミチオン乳剤	8 倍	100ml		21日前まで	4回以内
	紫斑病	2回目	アミスター20フロアブル	16倍	50ml		7日前まで	2回以内
	カメムシ類		キラップフロアブル					

〔随時防除〕

使用機械	対象病害虫	薬 剤 名	希釈倍数	10a当り原液量	10a当り散布量	収穫前日数	総使用回数
動力散布機	ハスモンヨトウ・アブラムシ類	トレボン粉剤DL			4 kg	14日前まで	2回以内
	ウコンノメイガ・フタスジヒメハムシ	ダントツH粉剤DL				7日前まで	3回以内
	カメムシ類						
動力噴霧機	ウコンノメイガ・ハスモンヨトウ	プレバソンフロアブル5	4,000倍	50ml	200 ℓ	7日前まで	2回以内
	ハダニ類	ニッソラン水和剤	2,000倍	100 g		14日前まで	
	カメムシ類	トレボン乳剤	1,000倍	200ml			
無人航空機	ウコンノメイガ・ハスモンヨトウ	プレバソンフロアブル5	16倍	50ml	0.8 ℓ	7日前まで	14日前まで
	カメムシ類	トレボンエアー	8 倍	100ml			

〔雑草防除〕

区 分	除草剤名	対象雑草	10a当り散布量	使用時期	総使用回数
播種後 (土壌処理)	トレファノサイド粒剤25	畑地1年生雑草	6 kg	播種後出芽前	1 回
	トレファノサイド乳剤		300ml/水100 ℓ		
	プロールプラス乳剤		500ml/水100 ℓ		
生育期 (全面散布)	大豆バサグラン液剤	畑地1年生雑草 (イネ科を除く)	100～150ml/水100 ℓ	大豆第2葉期～開花前 収穫45日前まで	1 回
	ポルトフロアブル	イネ科雑草	200～300ml/水100 ℓ	イネ科雑草3～10葉期 収穫30日前まで	2 回
生育期 (うね間散布)	ザクサ液剤	畑地1年生雑草	300～500ml/水100～150 ℓ	雑草生育期（うね間処理） 収穫28日前まで	3回以内
	バスタ液剤		300～500ml/水100～150 ℓ	雑草生育期（うね間処理） 収穫28日前まで	3回以内
	ダイロンゾル		100～200ml/水100 ℓ	生育期（うね間、株間処理 ：5葉期以降、雑草生育期）	1 回

※ダイロンゾルは、ザクサ液剤またはバスタ液剤を混用することで抑草期間が長くなる。(混用の際はダイロンゾルを先に水に溶かす)